



11月 園だより

令和2年度
段原みみょう保育園



昼夜の寒暖差も大きくなり、比治山の木々は、葉の色が少しずつ変わりつつあります。先日の参観日には、お忙しい中、大勢の方にお越しいただき、ありがとうございました。コロナ対策を取りながらの参観でしたが、ご理解、ご協力をいただき、楽しい時間となりました。子どもたちが日々、夢中になっているあそびや、興味・関心を持っていることなどは、きっぷノートなどでお伝えしておりますが、いつもの子どもたちの様子を見ていただけたことと思います。



子どもたちのアート…無限に広がる世界



参観日の前日、年少の男の子がお迎えに来てくれたお父さんに「明日、すごく楽しみ！モモイロインコと一緒に作ろうね！」と話しかけていました。年少ぼたん組では、この夏、動物や鳥、恐竜、昆虫などの図鑑を新たに購入し、お部屋に置きました。その図鑑は、分厚くて内容は、漢字まじりで難しく、高度かなとも思われましたが、その心配をよそに子どもたちは、図鑑に群がるようにして集まり、毎日熱心に読み続け（見続け）ました。読めない字は、保育士に聞き、いつしか、クラスみんなが動物と鳥が大好きになっていました。その興味・関心から広がった「動物と鳥の製作ブーム」。参観日当日は、おさんのユニークな想像力に驚かされたのではないのでしょうか。

園では、0歳児のクラスから、自然素材（水・砂・石・土・葉・枝・草・実など）、人工素材（紙類・プラスチック類・金属など）といった様々な「もの」に出会える環境を用意し、赤ちゃんたちが、それらに積極的に手を伸ばす様子が見られます。「もの」に触れることで、素材の性質を知り、感性が育まれ、その乳児の頃からの「触れることの豊かな経験」がいずれ、表現活動（造形あそび）へと繋がっていきます。造形あそびをするにあたって、保育者が思うこと・・・①試行錯誤を繰り返しながら製作をする中で、新しいアイデア・考えを生み出すわくわく感を実感しながら、自分なりの表現をしてほしい。②完成した際には思いっきり達成感を味わってほしい。③幼児クラスでは、あきらめずに取り組み、友だちと一緒に目的を共有しながら知恵を出し合い、一緒に楽しんでほしい。その中で、相手の気持ちを理解し、人との関わりを学んでほしい。・・・この3つのことを願いながら、保育者は、一人ひとりの興味・関心や思いを把握し、子どもたちの今その瞬間のあそびが充実するような環境の準備を常にしていきたいと思っています。私たち大人は、子どもたちのアートを「上手い、そうでない。」という大人の物差しで捉えるのではなく、作る過程で子どもたちが何を感じ、発見し、学んだのかという点に重点を置いて見ていきたいものです。

さて11月8日（日）は、みみょうフェスティバルがあります。あそびの広場には今、子どもたちの大人では想像もつかないような発想のあそびがどんどん広がっています。当日は、幼児クラスのみ展示・参加となりますが、乳児クラスの子もあそびの広場に行ったら、お兄さんお姉さんの活動の様子をじーっと見えています。乳児クラスの保護者の方もお迎えの際など、ぜひ5階あそびの広場に立ち寄っていただき、無限に広がる子どもたちの世界をのぞいてみてください。

これからますます空気が乾燥し、コロナウイルスだけではなく、様々な感染症が心配な季節となりますが、しっかりと対応策をとり、健康管理には気をつけながら、過ごしていきたいと思っています。



園長